

## 「伊豆の国市新火葬場基本計画（案）」に対する 意見公募（パブリックコメント）実施結果

「伊豆の国市新火葬場基本計画（案）」に関する意見公募（パブリックコメント）の結果、貴重なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。お寄せいただいたご意見とそれに対する、市の考え方につきまして、下記のとおり公表いたします。

### 記

#### 1. 意見公募（パブリックコメント）の実施状況

- |           |                        |
|-----------|------------------------|
| （1）意見募集期間 | 平成29年6月5日（月）から6月21日（水） |
| （2）意見提出者数 | 2（個人1、団体1）             |
| （3）意見提出方法 | E-Mail 1、ファクシミリ 1      |
| （4）意見総数   | 4件                     |

#### 2. 伊豆の国市新火葬場基本計画への反映

ご提出いただいた意見は、計画案策定時に検討した内容や今後の業務で参考とさせていただく内容でした。そのため、伊豆の国市新火葬場基本計画は原案どおりとします。

新火葬場基本計画(案)に対する意見公募(パブリックコメント)についての回答

	該当頁	項目	意見	意見への対応(回答)
1	47頁	使用燃料	灯油がLPガスより扱いやすいと認識されているようだが、灯油は自然劣化するのに対しLPガスは劣化はない。気体の燃焼効率が良い+排気ガス(NOxSOx)がないことを考慮すると、他の最新の火葬場同様LPガスの選択が考えられるのではないか。	<p>最新の火葬炉及び集塵装置を設置した場合、施設外へ排出される際の排ガスの状況は、ガスと灯油でほとんど差異がなく、いずれの燃料を使っても環境や人体に影響ありません。</p> <p>燃料の選択については、新火葬場建設地の立地及び燃料の保管・管理の観点から、より安全と考えられることから、灯油を採用することとしました。</p> <p>また、灯油の自然劣化についてですが、火葬場は友引と年始を除いて稼働し、1日複数件の火葬が見込まれることから、自然劣化の影響は極めて軽微と考えられます。</p> <p>なお、市で把握している全国の他自治体過去10年間の火葬炉納入実績からすると、7割以上が灯油となっています。また、ガスが選択されている場合のほとんどが都市ガスです。他自治体でも、環境面のみならず立地等複合的な理由から、燃料を選択しているものと考えられ、必ずしも最新の施設だからガスを採用しているわけではないといえます。</p>
2	26頁	多目的室	家族葬が増える傾向があるので、家族葬対応としたのは大変良いと思う。ただ、使用時間が50分とあるが、弾力的な運用が望ましい。	火葬場の主たる業務である、火葬業務を優先し、火葬スケジュールに影響がない範囲での運用を現在考えています。今後、施設設計等とともに、詳細な施設運用方法を検討させていただきます。
3	全体頁	施設耐用年数	市民の意見も丁寧に取り入れ上でしっかりと練られた大変良い計画であると思う。ところで、施設の耐用年数をどのくらいに見ているのか。	建築自体の耐用年数は、日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」等から、60年と想定しています。ただし、20～30年程度経過時点で、火葬件数やニーズに対応するための施設の改修や機械設備の大規模修繕等が発生する可能性があります。
4	全体頁	明るく開放的な雰囲気づくり	長岡斎場は狭くて暗くて陰鬱な雰囲気があり、気が滅入る場所であった。新火葬場は蔽かな中にも明るく開放的な雰囲気の空間としてもらいたい。	建設地のロケーションを最大限活かし、富士山の眺望や周辺の自然環境を眺められるよう、大きな開口部を設けるとともに、自然光を積極的に取り込み、明るく開放的な雰囲気の空間づくりを目指したいと思えます。